問題 4 次のプログラムの説明および擬似言語の記述形式の説明を読み、設問に答えよ。

「プログラムの説明]

要素数が N 個の 1 次元配列 DAT [k] (k=0, 1, ..., N-1) から二分探索法によりデータを探索する関数 B_search である。なお,見つかった場合はその位置(添字の値)を,見つからなかった場合は-1 を,変数 P に設定するものとする。

二分探索法とは、昇順、または降順に整列済みである配列を利用した探索方法で、探索しようとする値と1次元配列の中央の値を比べ、その大小関係によって探索範囲を狭くして目的のデータを検索するものである。

ここで、配列の大きさは N に、探したいデータは X に、データは 1 次元配列 DAT に昇順に格納済みとし、二分探索法の手順を $I \sim III$ に示す。

- I. 探索範囲の先頭要素の添字を Low, 末尾要素の添字を High とする。なお, 初期値は, Low=0, High=N-1 である。
- II. 探索範囲の中央要素となる DAT[M]と比較する。ただし、 $M=(Low+High)\div 2$ とし、小数点以下は切り捨てる。

DAT[M] < X なら、Low=M+1 とし、次の探索範囲を、配列の要素位置が M より大きい方とする。

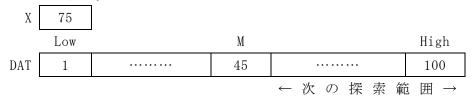


図1 比較例1

DAT [M] > X なら、High=M-1 とし、次の探索範囲を、配列の要素位置が M より小さい方とする。

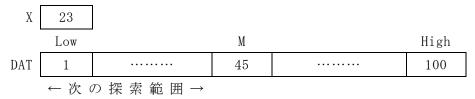


図2 比較例2

DAT[M]=X なら、見つかった時の処理をして、探索を終了する。

III. Low>High となるまで、II を繰り返す。Low>High の場合は、探したいデータ X と同じ値が配列 DAT に存在しないことになる。

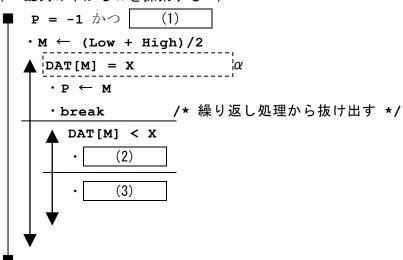
「擬似言語の記述形式の説明]

記述形式	説明		
0	手続き、変数などの名前、型などを宣言する		
・変数 ← 式	変数に式の値を代入する		
/* 文 */	注釈を記述する		
▲ 条件式			
・処理 1	選択処理を示す。		
	条件式が真の時は処理1を実行し、		
<u>↓</u> ・処理 2	偽の時は処理2を実行する。		
▼			
₩ 条件式	前判定繰り返し処理を示す。		
・処理	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
	条件式が真の間,処理を実行する。		

「プログラム]

- \bigcirc B search (整数型:N, 文字型:DAT[], 整数型:X)
- ○整数型:Low, High, m, P
- \cdot Low \leftarrow 0
- · High \leftarrow N 1
- p ← -1

/* 配列の中から X を探索する */



<設問1> プログラム中の に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

(1) の解答群

 \mathcal{T} . Low < High

ウ. Low > High

エ. Low \geqq High

(2), (3)の解答群

 \mathcal{T} . High \leftarrow M - 1

 $\dot{\mathcal{D}}$. Low \leftarrow M - 1

 \pm . Low \leftarrow M + 1

<設問 2 > 配列 DAT の内容が次のような場合、プログラム中の α を実行するときの変 数 Low, High, M をトレースした表の に入れるべき適切な字句を解答群から 選べ。

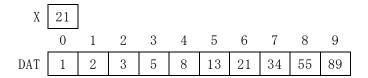


表 トレースの内容

順番	Low	High	М
1	0	9	4
2	(4)		
3	5	6	5
4		(5)	

(4), (5)の解答群

•	•	·	•
イ.	5	9	7
ウ.	6	6	6
工.	6	8	7